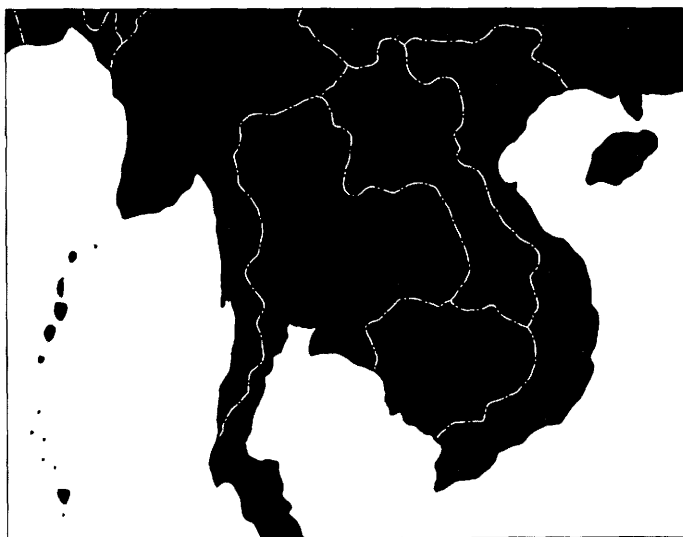


アジアの経済圏シリーズ IV

バーク経済圏の展望

ひとつの東南アジアへの躍動

糸賀 滋編



アジア経済研究所

アジアの経済圏シリーズ IV

バーツ経済圏の展望

——ひとつの東南アジアへの躍動

糸賀 滋編

アジア経済研究所

編者紹介

糸賀 滋

一九四二年 東京都生まれ。

一九六五年 慶応義塾大学経済学部卒業。

一九六五年 アジア経済研究所入所。

一九六九〜七〇年 同研究所海外派遣員として、カンボジア

王国プノンペンに赴任。

一九八九〜九二年三月 タイ王国タマサート大学にて客員研

究員（同研究所海外調査員）。

一九九二年四月〜 アジア経済研究所経済協力調査室主任調

査研究員。

（編著書）

『タイの人的資源開発——過去・現在・未来』、アジア経済
研究所、一九九二年。

『タイの経済発展とインフォーマル・セクター』、アジア経済
研究所、一九九三年。

アジアの経済圏シリーズ IV

バツ経済圏の展望——ひとつの東南アジアへの躍動

1993年3月31日発行©

編者 糸賀 滋
発行所 アジア経済研究所

東京都新宿区市谷本村町42
電話 03(3353)4231 (代表)

印刷・製本 コロニー印刷 ISBN4-258-23004-9
落丁・乱丁本はお取替えいたします。

「戦場から市場へ」—— 印象的な言葉からタイ経済のインドシナ接近は始まった。また、東西冷戦構造の崩壊とカンボジア和平の実現をうけて、インドシナ諸国も世界経済への復帰をはかっている。今やNIESに追いつかんばかりのタイと、経済改革が実を結び、市場経済が根づきはじめたインドシナ諸国、この両者は今後どのような地域経済圏を築くのか。

本書は最新のデータに基づき、インドシナ諸国の経済状況を叙述し、タイとインドシナ諸国との経済交流の実態と展望を描き出す。

●本書の構成●

- 第1章 「パーツ経済圏」をめぐる議論
- 第2章 拡大するタイとインドシナ三国の経済関係
- 第3章 ベトナムのドイモイ政策の現状と展望
- 第4章 ベトナムにおける資金調達の問題
- 第5章 ラオスの自由化政策と経済開発
- 第6章 カンボジア経済の再出発
- 付 録 パーツ経済圏関係年表 (1986~92年)
パーツ経済圏諸国の対照表
参考文献リスト

目次

まえがき

第1章 「パーツ経済圏」をめぐる議論

はじめに……………2

第1節 「パーツ経済圏」の発生

天川直子……………2

1 一九七九年まで……………3

2 カンボジア紛争をめぐる対立……………4

3 一九八〇年代末までのタイとインドシナ諸国との経済関係……………7

タイ⇨ベトナム関係／タイ⇨カンボジア関係／タイ⇨ラオス関係

4 「政経分離」への助走……………13

5 対インドシナ政策の転換……………16

第2節

「パーツ経済圏」の現状と展望

糸賀 滋／利根山敏郎／村井純……………17

経済成長のポテンシャル／ベトナムの将来とアジアの地域経済圏／周辺諸国の動き／今

後の展望

第2章 拡大するタイとインドシナ三国の経済関係

糸賀 滋／タニン・パエム……27

はじめに……28

第1節 貿易……29

1 概況……29

2 対ベトナム貿易……31

第2節 投資……33

1 概況……33

2 対ベトナム……36

第3節 援助……40

1 タイ政府の対インドシナ援助計画……40

2 投資委員会の活動……42

3 資金協力……43

4 対ベトナム交渉……44

5 文化援助構想……45

第4節 金融センター……45

第5節 東北タイの期待……47

むすび……49

第3章 ベトナムのドイモイ政策の現状と展望

村井純……………53

はじめに……………54

第1節 潜在大国ベトナム……………55

1 主要産業……………55

2 ベトナムが注目される理由……………57

地理的優位性／豊富な天然資源／七〇〇〇万人の人口／豊富で低廉良質な労働力／ODA
再開への期待

第2節 ベトナムを理解するためのキーワード……………59

中国文化圏の国／東南アジアの国／社会主義の国／ゲマインシャフトの世界／華僑の経済
力

第3節 ベトナムの経済改革——ドイモイ……………64

1 第二次五カ年計画期（一九七六～八〇年）——重化学工業の重視と失敗……………64

対外情勢の変化／国内経済政策の失敗

2 第三次五カ年計画期（一九八一～八五年）——農業・消費財の重視への転換……………68

農業部門の改革／工業部門の改革／価格・賃金・通貨改革

3 第四次五カ年計画期（一九八六～九〇年）——ドイモイの開始……………71

農業部門のドイモイ政策／工業部門のドイモイ政策／対外関係分野でのドイモイ政策（開
放化政策）／ドイモイの成果（光と影）

4 二〇〇〇年に向けての発展戦略（一九九一～二〇〇〇年）……………77

第七回共産党大会／憲法の改正／ドイモイの再スタート

5 ドイモイの展望……………80

西側よりの本格的開発援助／ASEAN加盟の可能性／対中関係／インフラの整備／南北
格差問題／保守派の動向／人口問題／石油資源開発の成否

第4章 ベトナムにおける資金調達の問題

利根山敏郎……………89

はじめに——ドイモイ政策の狙いと前提条件……………90

第1節 ハード・インフラの現状とソフト・インフラ整備の重要性……………91

1 ハード・インフラの現状……………91

運輸／電力／通信

2 ソフト・インフラ整備の重要性……………94

第2節 ドイモイ遂行のための資金調達問題……………95

1 国内資金源……………96

国家財政依存の限界／金融面における方策

2 対外資金源……………104

対外貿易の現状／海外直接投資の現状／対外借入

第5章 ラオスの自由化政策と経済開発

竹原 茂(ウドム・ラタナヴォン)……………119

はじめに……………120

第1節 新経済メカニズムの導入……………121

1 改革の内容と成果……………121

2 対ラオス直接投資……………126

第2節 産業構造……………128

1 基幹産業……………128

2 貿易構造……………131

第3節 「パーツ経済圏」とラオス経済……………133

1 貿易……………134

2 直接投資……………136

3 政府間経済協力……………138

むすび……………140

第6章 カンボジア経済の再出発

天川直子……………143

はじめに……………144

第1節 一九八〇年代……………145

1 カンボジア経済をとりまく環境……………145

2 一九八〇年代の経済復興……………149

3 一九八〇年代の貿易……………154

第2節 一九九〇年代初頭……………157

1 一九九〇年代初頭の経済混乱……………157

第3節 カンボジアとタイとの経済関係……………160

1 タイの対カンボジア投資……………161

2 貿易……………165

むすび……………169

バーツ経済圏関係年表（一九八六～一九九二年）……………176

付表 バーツ経済圏諸国の対照表……………180

参考文献リスト……………182

執筆者紹介 ● (執筆順)

糸賀

● アジア経済研究所経済協力調査室主任調査研究員

天川直

● アジア経済研究所経済協力調査室

村井純

● 丸紅株式会社 (国際開発高等教育機構へ出向中)

利根山敏

● 丸紅株式会社機械総括部担当部長 (国際協力担当)

竹原

● 麗澤大学国際経済学部助教授
(ウドム・ラタナヴォン)

(一九九三年三月現在)

編者紹介

糸賀 滋

一九四二年 東京都生まれ。

一九六五年 慶応義塾大学経済学部卒業。

一九六五年 アジア経済研究所入所。

一九六九〜七〇年 同研究所海外派遣員として、カンボジア

王国プノンペンに赴任。

一九八九〜九二年三月 タイ王国タマサート大学にて客員研

究員（同研究所海外調査員）。

一九九二年四月〜 アジア経済研究所経済協力調査室主任調

査研究員。

（編著書）

『タイの人的資源開発——過去・現在・未来』、アジア経済
研究所、一九九二年。

『タイの経済発展とインフォーマル・セクター』、アジア経済
研究所、一九九三年。

アジアの経済圏シリーズ IV

パーツ経済圏の展望——ひとつの東南アジアへの躍動

1993年3月31日発行©

編者 糸賀 滋
発行所 アジア経済研究所

東京都新宿区市谷本村町42
電話 03(3353)4231 (代表)

印刷・製本 コロニー印刷 ISBN4-258-23004-9
落丁・乱丁本はお取替えいたします。

アジアの経済圏シリーズについて

アジア経済研究所経済協力調査室では、昭和六十一年度から五年間にわたって、アジア各国・地域の工業化の実態と今後の可能性を探る「アジア工業化展望総合研究」を実施してきました。その成果はすでに「アジア工業化シリーズ」(全十五冊)として公刊され、好評を博しております。

「アジア工業化展望総合研究」が実施された八〇年代後半には、アジア地域の工業化の進展を示す新たな傾向として、この地域における経済的相互依存関係が急速に高まる様相を呈しており、これは地理的に隣接していながらこれまで種々の条件により経済的結びつきが必ずしも強くなかった国・地域の間で、局地的な地域経済圏の形成を目指す動きとして表れてきています。こうした動きは、地域間の分業の展開を通じて域内諸国の経済発展を促進するだけでなく、世界経済に対しても積極的な影響を与える可能性をもっております。

こうしたことから、経済協力調査室では、平成三年度よりアジア工業化展望総合研究の一環として、新たに「アジア経済圏研究」を実施し、その成果を「アジアの経済圏シリーズ」として公刊を開始することとなりました。このシリーズでは、昨今注目されているアジア地域内の地域経済圏について、最新データに基づく域内各国・地域の経済発展および対外関係の分析を通じて、経済圏の実態、今後の発展可能性および予想される方向について検討を加えます。三年度にわたって、年度ごとに二冊の報告書を公刊する予定です。

各位のご愛読が頂ければ幸甚です。

平成四年 春

アジア経済研究所長 宗像善俊